

今年度の広報効果の検証結果

＜第6回 大型車通行適正化に向けた関東地域連絡協議会＞

平成29年12月6日（水）

<目 次>

1. 広報の効果検証（第3回）概要
2. 連絡協議会広報全体の評価
3. 各広報の評価
4. 総評

1. 広報の効果検証(第3回)概要

効果検証概要

①効果検証の目的

今年度実施した連絡協議会の広報について、どのような効果（反響）があったのか評価・分析を行い、その結果に基づき、効果が確認された広報は継続し、効果が確認されなかった広報は改善していく必要がある。そのための基礎材料とするため、効果検証を毎年行っているものである。

②対象広報

重点広報期間に実施した広報全体の評価

③対象期間

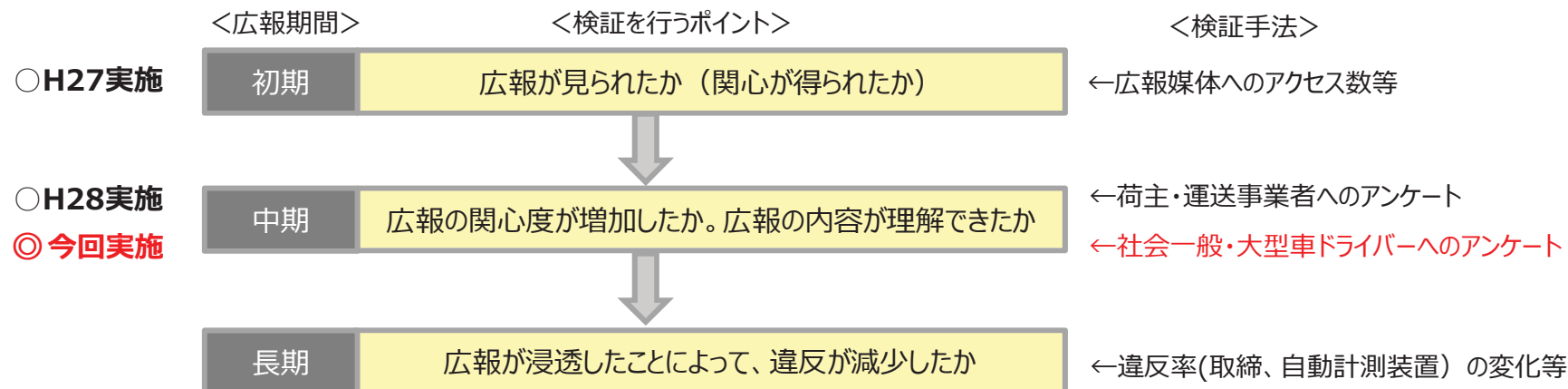
重点広報期間：平成29年10月6日（金）～11月10日（金）
※台風により11月22日（水）に延期となった幕張PAイベントを含む

④効果検証の考え方

効果検証は広報の実施期間に応じて、下図のように段階的に実施する。

⑤検証ツール

重点広報期間に実施したWebおよび実地アンケート調査結果、その他アクセス数が計測可能な媒体（ツイッター）による

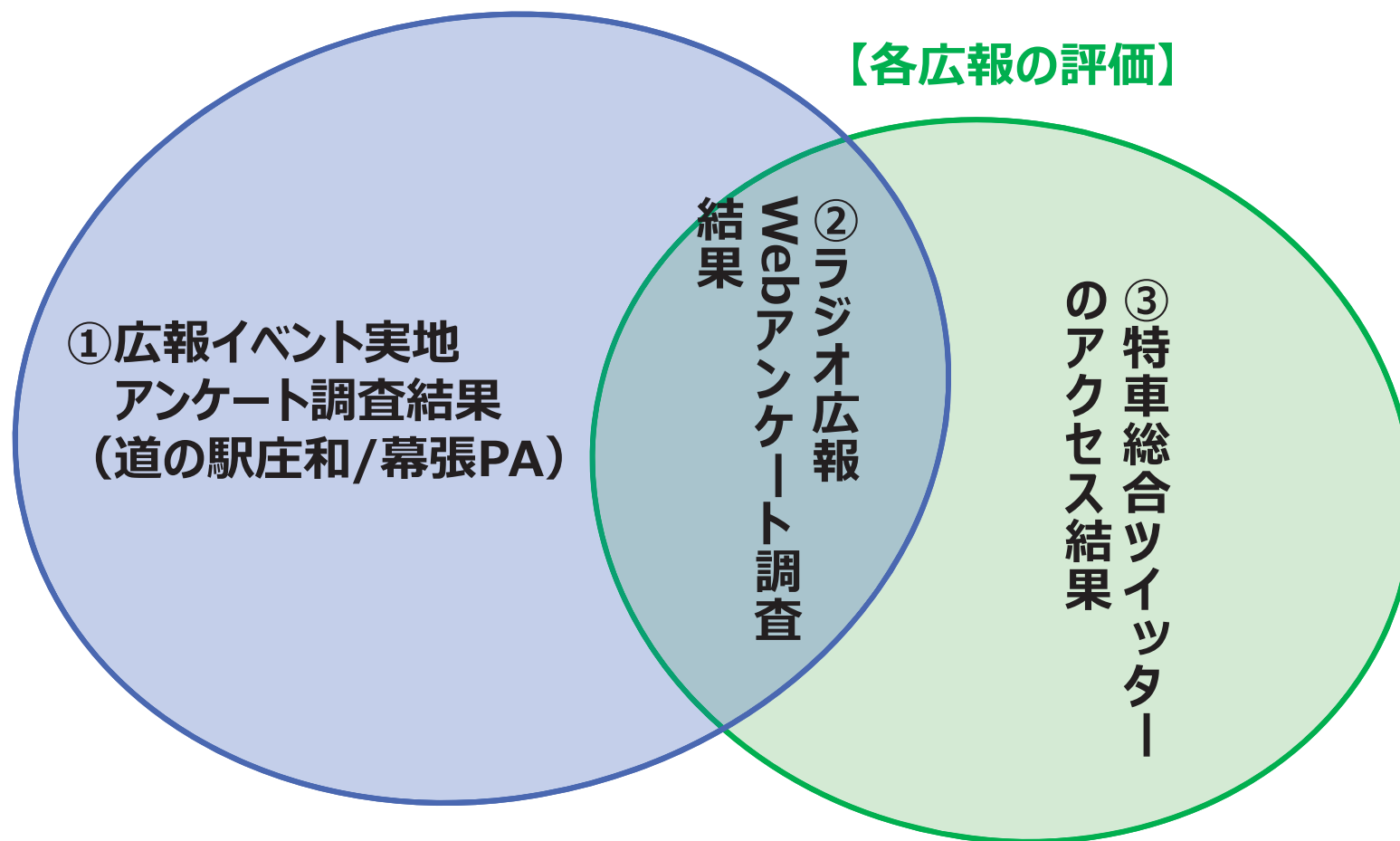


1. 広報の効果検証(第3回)概要

今年度の広報効果の検証は、全体的な評価と個別の広報評価による2つの観点から行うこととし、下図の3つの結果を基に実施する。

【連絡協議会広報全体の評価】

【各広報の評価】



2. 連絡協議会広報全体の評価

① 広報イベント実地アンケート調査結果

道の駅庄和および幕張PAの2箇所で開催した『重量守り、道路を守ろう』パネル展にて、社会一般/大型車ドライバーに対して実施したアンケート調査結果を基に、大型車通行適正化に関する認知状況を確認し、広報全体の評価を行った。

道の駅庄和_10/9（月・祝）

【回答数】

一般向け：162名

大型車ドライバー向け：21名



※道の駅庄和のアンケート結果は別添3-1参照

京葉道路①幕張PA_11/22（水）

【回答数】

一般向け：87名

大型車ドライバー向け：24名



※幕張PAのアンケート結果は別添3-2参照

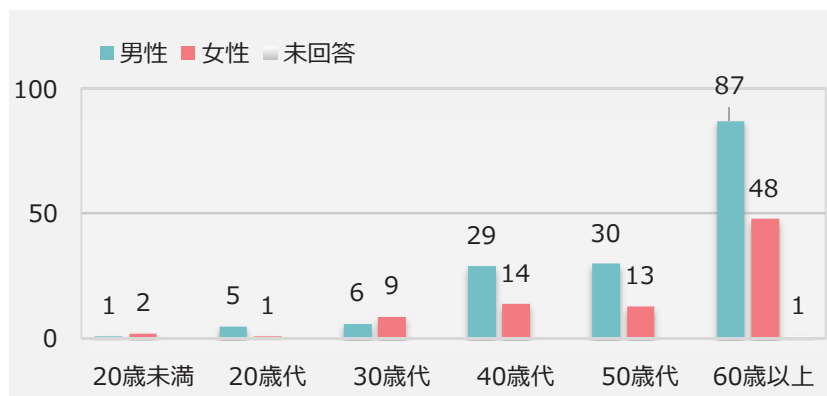
パネル展の開催場所による認知度の差はないものとし、合算して評価する。

2. 連絡協議会広報全体の評価

① 広報イベント実地アンケート調査結果

■ 回答者の属性

回答者の性別は、男性：女性＝6：4の割合で、年代別では男女とも50歳以上が占める割合が全体の7割以上であった。
(この傾向は道の駅のアンケート調査では特に顕著であった。)



一般向けアンケート項目（全8問）

質問 1：属性（性別・居住地・年代）

質問 2：全国的に道路（橋等）が老朽化している問題をご存知ですか？

質問 3：道路（橋等）の老朽化にはどのような危険があると思われますか？

質問 4：道路を自由に通行できる車両の重さには、限度があることをご存知ですか？

質問 5：高速道路や国道等で、重量オーバー等の大型車両の取締りを実施していることをご存知ですか？

質問 6：道路の老朽化問題や違法な重量オーバーの現状を広く国民の皆様を知って頂くには、どのような取り組みを実施すると効果があると思われますか？

質問 7：（劇画風タイヤ）イラストを以前に見たことがありますか？

質問 8：どこで質問 7 のイラストを見ましたか？

1) 社会一般の認知状況（249サンプル）

【質問 2】老朽化問題について

よく知っている	118	47%
何となく知っている	97	39%
あまり知らない	25	10%
全く知らない	9	4%
関心がない	0	0%
合計	249	100%

■ 老朽化の認知度

・道路の老朽化問題の認知度は5割近かった。「何となく知っている」と回答した割合も4割程度であり、全般的に概ねの認知がなされている結果であった。

【質問 4】道路を自由に通行できる車両の重さの限度について

よく知っている	134	54%
何となく知っている	73	29%
あまり知らない	27	11%
全く知らない	15	6%
関心がない	0	0%
合計	249	100%

■ 特車制度の認知度

・道路を自由に通行できる車両の重さの限度（特車制度）の認知度は、道路の老朽化問題以上に高く5割を超えた。なお、昨年度道の駅やちよで実施した同様のアンケートでは、特車制度の認知度が53%であったため、微増（+1%）した。

2. 連絡協議会広報全体の評価

① 広報イベント実地アンケート調査結果

【質問6】効果的な取組みについて（複数回答）

新聞広告	90	24%
ホームページによる情報提供	40	11%
SNSによる情報提供	42	11%
イベントの実施	70	19%
ラジオCM	95	26%
特に何もする必要はない	2	1%
その他	32	9%
合計	371	100%

【質問7】劇画風タイヤイラストの認知度

見たことがある	30	12%
見たことがない	219	88%
合計	249	100%

【質問8】イラストを見た場所について（複数回答）

高速道路のSA/PA	19	58%
警察署	5	15%
特車総合ツイッター	2	6%
関東地方整備局ホームページ	0	0%
その他	4	12%
無回答	3	9%
合計	33	100%

1) 社会一般の認知状況（249サンプル）

■ 効果的な取組み

・連絡協議会の取組みを広く知らしめるための効果的な取組みとしては、「ラジオCM」を挙げる声が3割近くで最も多く、次いで新聞広告も多かった。なお、今回実施したパネル展イベントも3番目に評価が高かったことから、対面での取組みも継続していく必要があると考えられる。

■ 連絡協議会の認知度

・連絡協議会統一イラストである劇画風タイヤイラストを「見たことがある」と回答した割合は、約1割であった。
 ・なお、昨年度実施した道の駅やちよでのアンケート調査では、「見たことがある」と回答した割合が、14%であり、今年度は2%減少する結果となった。

・イラストを見た場所としては、高速道路のSA/PAが6割近くで最も多く、次いで警察署が2割近かった。



＜連絡協議会統一イメージ＞

【参考】H28道の駅やちよ実施（一般向け）アンケート結果

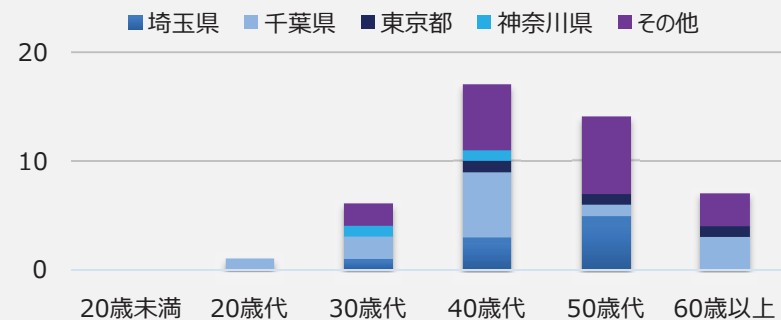
Q7 (SA) このイラストを以前に見たことがありますか？	n	%
全体	116	100%
見たことがある	16	14%
見たことがない	95	82%
わからない	5	4%

2. 連絡協議会広報全体の評価

① 広報イベント実地アンケート調査結果

■ 回答者の属性

アンケートに回答頂いた大型車ドライバーは40歳代が最も多く、40歳以上が占める割合は全体の8割以上であった。また、全体の4割は1都3県以外から走行してきた大型車両であった。



大型車ドライバー向けアンケート項目 (全10問)

- 質問 1 : 属性 (性別・出発地・年代)
- 質問 2 : 全国的に道路 (橋等) が老朽化している問題をご存知ですか？
- 質問 3 : 法令で定められた重量を超える大型車両は、通行許可が必要ですが、このことをご存知ですか？
- 質問 4 : 大型車両で積荷を運ぶ際に、運行管理者等から通行経路の指示はありますか？
- 質問 5 : 重量を違法に超過した大型車両 (特殊車両) への取締りが強化されていることをご存知ですか？
- 質問 6 : 車両総重量が基準の 2 倍以上の違反車両は現地取締時に即時告発 (レッドカード) となることをご存知ですか？
- 質問 7 : 荷主 (取引先) から、急な積荷の増量や、ルート変更等の指示をされたことはありますか？
- 質問 8 : 大型車両に関する法令、制度等について、これまで社内で研修や説明会等に参加したことはありますか？
- 質問 9 : (劇画風タイヤ) イラストを以前に見たことがありますか？
- 質問 10 : どこで質問 9 のイラストを見ましたか？

2) 大型車ドライバーの認知状況(45サンプル)

【質問 2】老朽化問題について

よく知っている	13	29%
何となく知っている	29	65%
あまり知らない	2	4%
全く知らない	1	2%
関心がない	0	0%
合計	45	100%

■ 老朽化の認知度

・道路の老朽化問題の認知度は、大型車ドライバーでは約 3 割であり、一般の約 5 割に対して、低めの結果となった。ただし、全く知らないのではなく「何となく知っている」との回答が 6 割近かったため、業務上で何らかの情報を得ている可能性が高い。

【質問 3】定められた重量を超える大型車両の通行許可について

よく知っている	24	53%
何となく知っている	20	45%
あまり知らない	1	2%
全く知らない	0	0%
関心がない	0	0%
合計	45	100%

■ 特車制度の認知度

・大型車ドライバーの特車制度の認知度は 5 割以上で、ほぼ一般と同等であった。

2. 連絡協議会広報全体の評価

① 広報イベント実地アンケート調査結果

【質問4】運行管理者等からの通行経路の指示について

必ず指定される	16	36%
時々指定される	15	33%
全く指定がないため自由に通行している	12	27%
無回答	2	4%
合計	45	100%

【質問5】重量違反の取締強化について

知っている	35	78%
知らない	9	20%
無回答	1	2%
合計	45	100%

【質問6】基準の2倍以上の重量超過車両への即時告発について

知っている	18	40%
知らない	27	60%
合計	45	100%

【質問7】荷主からの急な積荷増量、ルート変更指示について

頻繁にある	5	11%
時々ある	9	20%
あまりない	22	49%
一度もない	8	18%
無回答	1	2%
合計	45	100%

【質問9】劇画風タイヤイラストの認知度

見たことがある	10	22%
見たことがない	35	78%
合計	45	100%

2) 大型車ドライバーの認知状況(45サンプル)

■ 通行経路

- ・運行管理者等から通行経路を「必ず指定される」との回答が最も多かったが、「時々指定される」との回答も同程度あった。
- ・また、「全く指定がないため自由に通行している」ケースも3割近くあり、許可経路を遵守した走行がなされていない可能性が確認された。

■ 取締強化の認知度

- ・重量違反の取締が強化されていることは約8割の大型車ドライバーが認知していた。

■ 総重量2倍レッドカードの認知度

- ・取締強化の認知度が高かった一方で、基準の2倍を超過した重量違反車両の即時告発制度は、約6割が認知していなかった。

■ 荷主からの急な指示の有無

- ・荷主から急な積荷の増量やルート変更等の指示を1度でも受けたことがある割合は8割に上った。

■ 連絡協議会の認知度

- ・連絡協議会の統一イラストを「見たことがある」と回答した割合は約2割で、前回の33%から減少（-11%）した。

2. 連絡協議会広報全体の評価

① 広報イベント実地アンケート調査結果まとめ

▶ 社会一般

- 一般の特車制度の認知度は前回のアンケート時から、僅かながらも増加（1%増）した。
- 一方、連絡協議会の統一イラストの認知度は前回より減少（2%減）した。

▶ 大型車ドライバー

- 特車制度の認知度は5割程度であったが、「何となく知っている」との回答を含めるとほぼ100%であった。
- 取締強化については、8割の高い認知度が確認されたが、基準の2倍以上の重量超過車両への即時告発については、4割に留まった。
- 連絡協議会の統一イラストの認知度は前回より減少（11%減）した。

【考察】

- ✓ 一般および大型車ドライバー共に、連絡協議会イラストの認知度が低下したため、今後も継続的に連絡協議会委員協力のもと、チラシ等の露出を増やしていくことが重要。
- ✓ 認知度が低かった項目（2倍レッドカード）等は、今後も周知を進めていく必要がある。
- ✓ 一般の特車制度への認知度が想定より高い結果（大型車ドライバーと同等）となったことから、質問方法や回答選択肢を工夫し、次年度以降に認知度の再検証実施を検討。

2. 連絡協議会広報全体の評価

②－1 ラジオ広報Webアンケート調査結果

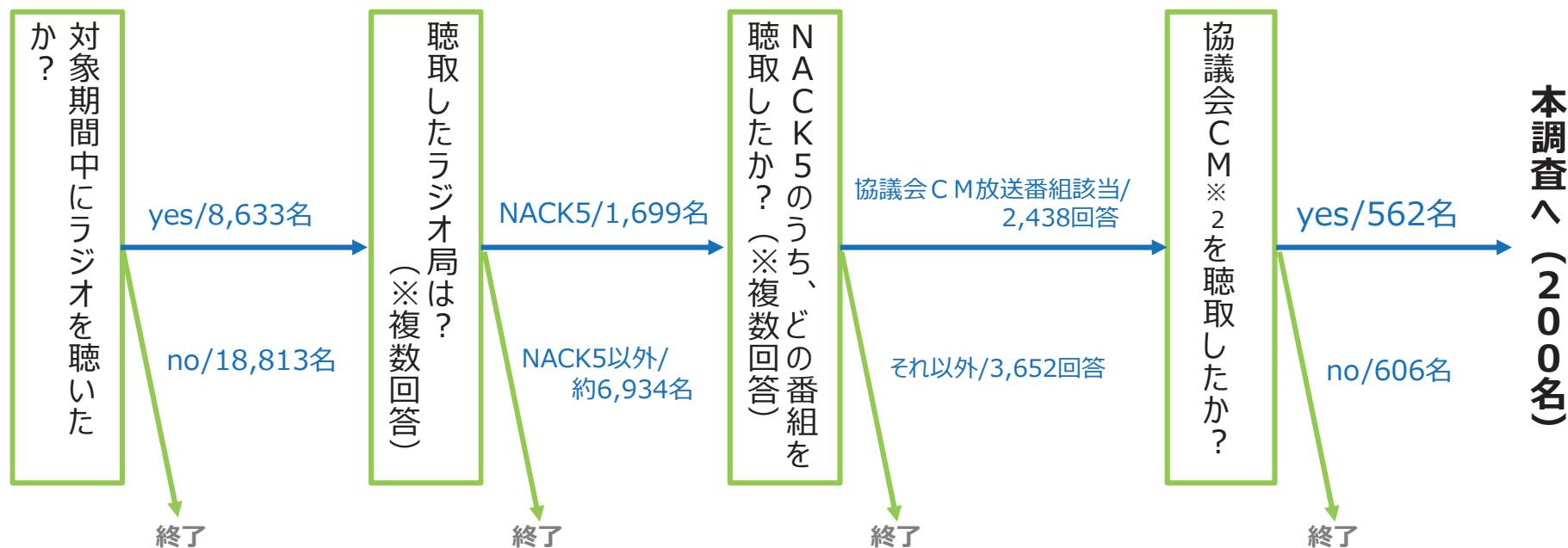
- ▶ アンケートの概要：連絡協議会によるラジオ広報（以下、「協議会CM」という）を聴取した1都3県在住の20～60代男女に対して実施したWebアンケート
- ▶ 調査期間：平成29年11月6日（月）～10日（金）
- ▶ 回収サンプル数：200名※1（このうち大型車ドライバー16名回答）

※サンプル200名は各年代・性別で概ね均等割付となるよう配慮

スクリーニング調査

※1：ラジオ広報Webアンケート結果は別添3-3参照

※2：協議会CM内容は、資料2 P14参照

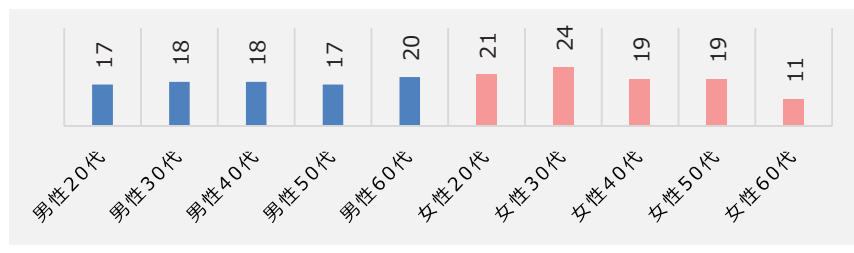


2. 連絡協議会広報全体の評価

②－1 ラジオ広報Webアンケート調査結果

■回答者の属性（一般：184名）

性別・年代による回答の偏りを防止するため、男女・各年代は基本的に均等割り付けとなるようスクリーニングを行った。ただし、女性60代のサンプル数が目標数に到達しなかったため、若年層（20～30代）で補填した。



一般向けアンケート項目（全12問）

質問1：普段ラジオを聴く際の聞き方として多いものは次のうちどれですか？

質問2：「大型車適正化ラジオCM」はどこで聴きましたか？

質問3：「～大型車適正化ラジオCM内容～」を聴いて、どのような印象をもたれましたか？

質問4：関心を持ったのはどのような点でしたか？

質問5：「大型車適正化ラジオCM」の内容を聴いて、重量オーバーの大型車に対してどうあるべきとお考えですか？

質問6－1：仕事での自動車の利用状況についてお答えください。

質問6－2：仕事以外の日常生活における自動車の利用状況についてお答えください。

質問18：全国で道路（橋）などが老朽化している問題をご存知ですか？

質問19：道路（橋など）の老朽化はどのような危険があると思われますか？

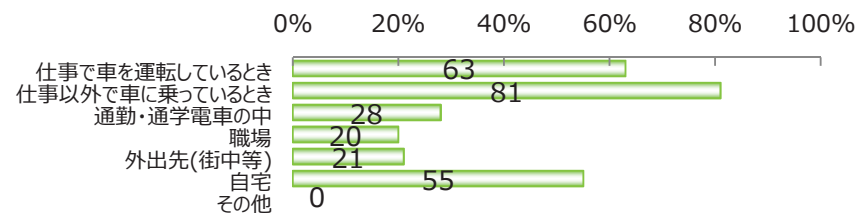
質問20：法令で定められた重さ等を超えた大型車は通行許可が必要ですが、このことをご存知でしたか？

質問21：高速道路や国道では、重量オーバー等の大型車の取締りを行っています、ご存知でしたか？

質問22：（劇画風タイヤ）イラストを見たことはありますか？

質問23：（見たことがある場合）どこで見ましたか？

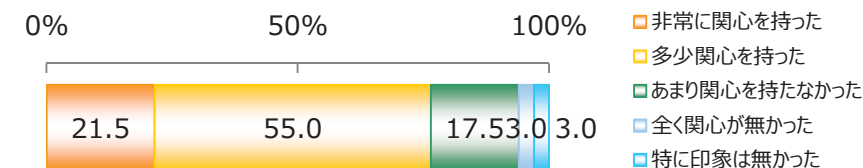
【質問2】「大型車適正化ラジオCM」どこで聴きましたか？（複数回答）



■CM聴取場所

・ラジオはドライバーとの親和性が高いため、本ラジオ広報も、仕事または仕事以外で車に乗っている時に多く聴取されていた。

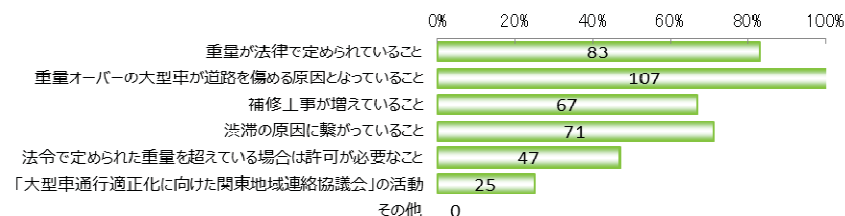
【質問3】「大型車適正化ラジオCM」を聴いて、どのような印象をもたれましたか？



■CMの印象

・ラジオCMを聴いて、多少でも関心を持ったと回答した割合は8割近く、何らかの印象を持たせることができた。

【質問4】関心を持ったのはどのような点でしたか？（複数回答）



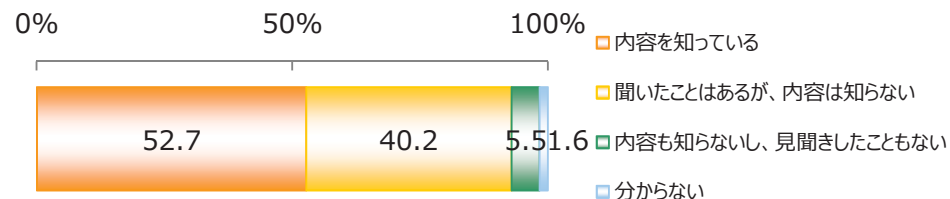
■関心内容

・CM内容で関心を得た点として最も多かったのは、連絡協議会として重点的に広報している「重量オーバーの大型車が道路を傷める原因となっていること」であった。

2. 連絡協議会広報全体の評価

②－1 ラジオ広報Webアンケート調査結果

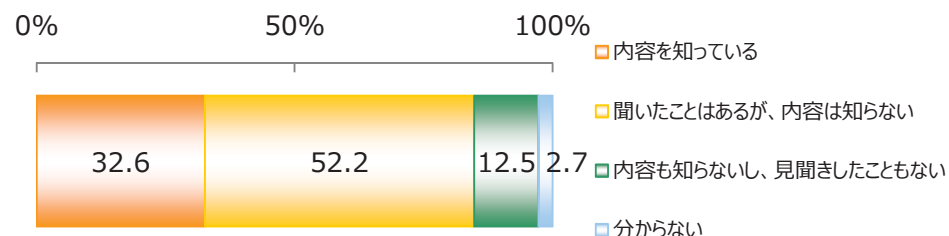
【質問18】全国で道路（橋など）が老朽化している問題をご存知ですか？



■ 老朽化問題の認知度

・道路の老朽化問題の認知度は約 5 割であり、パネル展イベントにおいて実施した一般へのアンケート結果とほぼ同様の結果であった。

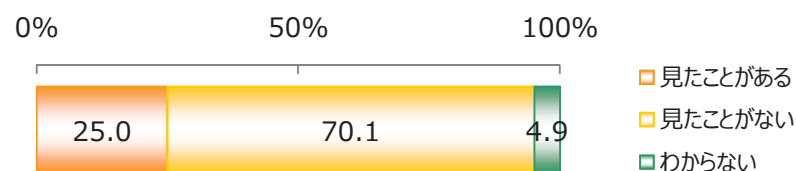
【質問20】法令で定められた重さ等を超えた大型車は通行許可が必要ですが、このことをご存知でしたか？



■ 特車制度の認知度

・特車制度の認知度は約 3 割で、パネル展イベントにおいて実施した一般へのアンケートでの約 5 割に対して大きく下回った。
 ・一方、全く認知していない割合は 1 割程度であったことから、ある程度は社会一般にも特車制度が認知されつつあると考えられる。

【質問22】（劇画風タイヤ）イラストを見たことがありますか？

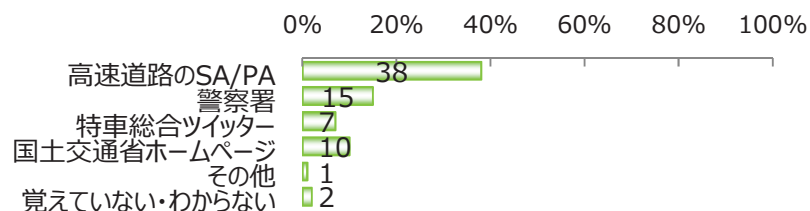


■ 連絡協議会の認知度

・連絡協議会の統一イラストの認知度は25%で、パネル展イベントアンケートでの12%に対して、2 倍程度上回った。

・イラストを見た場所としては、「高速道路のSA/PA」が最も多く、次いで「警察署」との結果で、イベントアンケートとほぼ同様の割合であった。

【質問23】（見たことがある場合）どこで見ましたか？



2. 連絡協議会広報全体の評価

②－1 ラジオ広報Webアンケート調査結果

大型車ドライバー向けアンケート項目（全17問）

質問1：普段ラジオを聴く際の聞き方として多いものは次のうちどれですか？

質問2：「大型車適正化ラジオCM」はどこで聴きましたか？

質問3：「～大型車適正化ラジオCM内容～」を聴いて、どのような印象をもたれましたか？

質問4：関心を持ったのはどのような点でしたか？

質問5：「大型車適正化ラジオCM」の内容を聴いて、重量オーバーの大型車に対してどうあるべきとお考えですか？

質問6－1：仕事での自動車の利用状況についてお答えください。

質問6－2：仕事以外の日常生活における自動車の利用状況についてお答えください。

質問7：全国的に道路（橋など）が老朽化している問題を報道や会社でお聞きになったことはありますか？

質問8：大型車を運転していて、道路の傷みを感じることがありますか？

質問9：法令で定められた重さ等を超えた大型車は通行許可が必要ですが、このことをご存知でしたか？

質問10：積荷を運ぶ際に、運行管理者からの指示はありますか？

質問11-1：特殊車両通行許可証で許可された通行経路をいつも走行していますか？

質問11-2：許可された通行経路以外の道路を使う理由をお答えください。

質問12：積荷積載時または運転中、積荷が積載可能な重量以上になった場合、どの段階でわかりますか？

質問13：荷主（取引先）から、急な積荷の増量や、ルート変更等の指示をされたことはありますか？

質問14：重量を違法に超過した大型車（特殊車両）の取締りが強化されていることをご存知ですか？

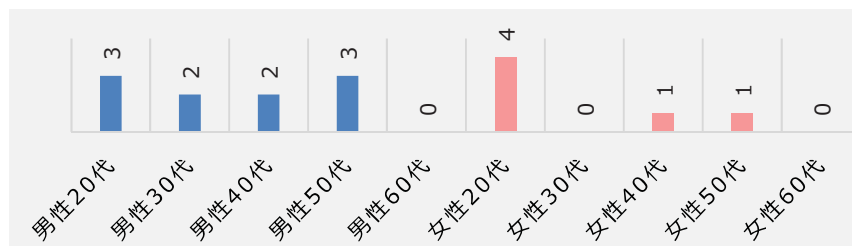
質問15：車両総重量が基準の2倍以上の違反車両は現地取締り時に即時告発（レッドカード）となることをご存知でしたか？

質問16：（劇画風タイヤ）イラストを見たことがありますか？

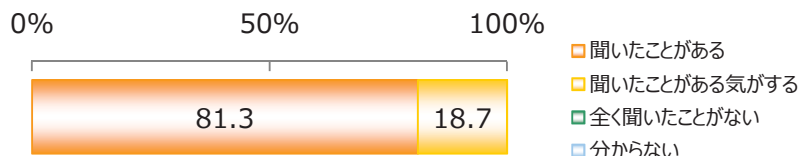
質問17：（見たことがある場合）どこで見ましたか？

■回答者の属性（大型車ドライバー：16名）

連絡協議会ラジオCMを聴取、かつ仕事で大型車両を運転する条件に当てはまるモニターは少なく、辛うじて男性10名、女性6名から回答を得ることができた。



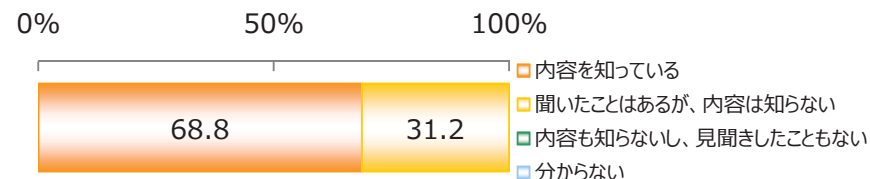
【質問7】老朽化問題を報道や会社でお聞きになったことはありますか？



■老朽化問題の認知度

・道路の老朽化問題の認知度は約8割であり、大型車ドライバーへのパネル展イベント実施アンケート結果の3割に比べて、大幅に高かった。

【質問9】法令で定められた重さ等を超えた大型車は通行許可が必要ですが、このことをご存知でしたか？



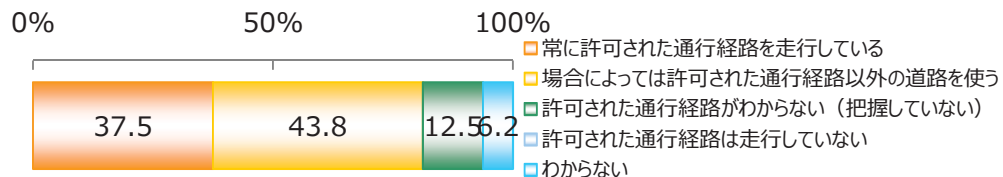
■特車制度の認知度

・特車制度の認知度もイベントアンケートの5割に対して、7割近い結果であった。

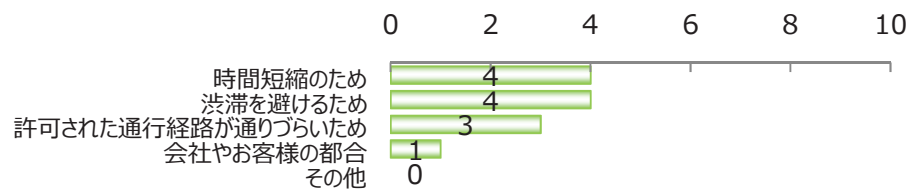
2. 連絡協議会広報全体の評価

②－1 ラジオ広報Webアンケート調査結果

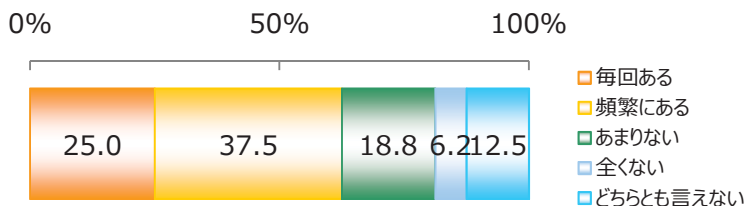
【質問11-1】許可経路をいつも走行していますか？



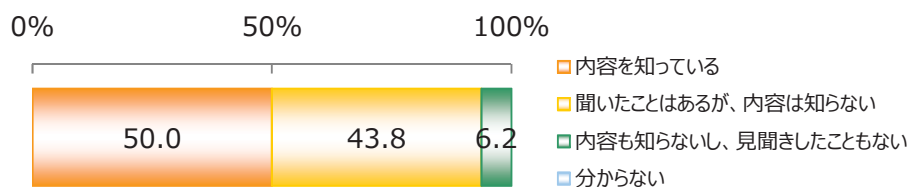
【質問11-2】許可された経路以外を走行する理由を教えてください。



【質問13】荷主から急な積荷の増量や、ルート変更等の指示を受けることはありますか？



【質問14】重量違反の取締強化についてご存知ですか？



■ 許可経路の走行状態

・「場合によっては許可経路以外を通行する」と回答した割合が4割以上で最も多く、許可経路を遵守しているのは4割未満であった。

■ 許可経路以外の走行理由

・許可経路を遵守しない理由としては、「時間短縮」「渋滞回避」「許可経路が通りづらい」といった理由が大半を占めた。

■ 荷主都合の急な変更指示

・荷主による急な変更指示については、約8割以上が1回以上受けた経験があるとの回答であり、「全くない」と回答した割合は、1割未満であった。

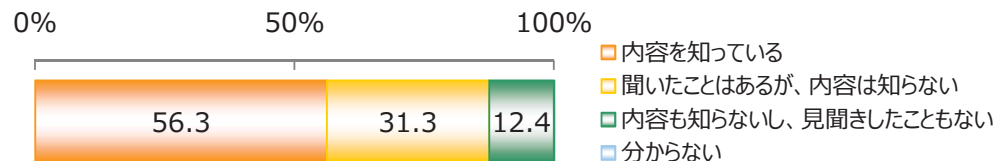
■ 重量違反の取締強化の認知度

・5割が重量違反の取締強化について認知していたが、4割程度は内容まで把握していなかった。

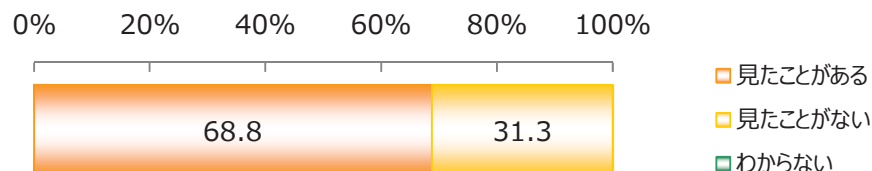
2. 連絡協議会広報全体の評価

②－1 ラジオ広報Webアンケート調査結果

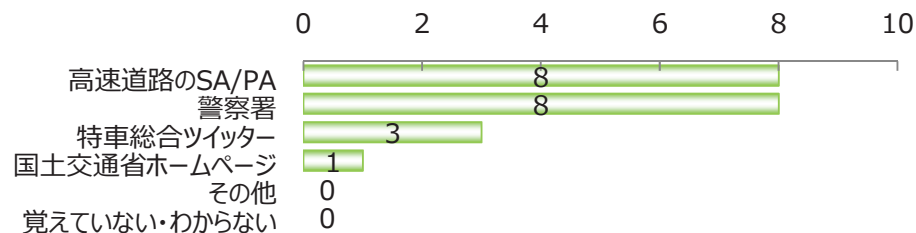
【質問15】総重量が基準の2倍以上の重量超過車両への即時告発についてご存知ですか？



【質問16】（劇画風タイヤ）イラストを見たことがありますか？



【質問17】（見たことがある場合）どこで見ましたか？



■ 総重量 2 倍レッドカードの認知度

・2 倍レッドカードの認知度は 5 割以上で、重量違反の取締強化以上の認知度であった。

■ 連絡協議会の認知度

・連絡協議会の統一イラストを「見たことがある」と回答した割合は 7 割近くであり、パネル展イベントアンケートの 2 割に対して、大幅に高い認知度が確認された。

・イラストを見た場所としては、高速道路のSA/PAと警察署が多かった。

2. 連絡協議会広報全体の評価

②－1 ラジオ広報Webアンケート調査結果まとめ

▶社会一般

- 特車制度の認知度は3割であった。
- 一方、連絡協議会の統一イラストの認知度も3割程度であった。

▶大型車ドライバー

- 特車制度の認知度は約7割で、一般の認知度3割に比べて非常に高かった。
- 連絡協議会の統一イラストの認知度も、約7割（11/16人）で非常に高かった。
- その他、場合によっては許可経路以外を通行していることや、荷主による急な変更指示の存在が確認された。

【考察】

- ✓ 大型車ドライバーと比較して、日頃大型車両との関わりが少ない社会一般では特車制度および連絡協議会の認知度が大幅に低い結果であったため、今後も社会一般に対する周知が必要である。
- ✓ 大型車ドライバーでは、老朽化問題や特車制度の認知度が7～8割で高かった一方、重量違反の取締強化や即時告発制度については5割程度であったことから、ドライバーまで広報が浸透する取組みの継続的な実施が必要。

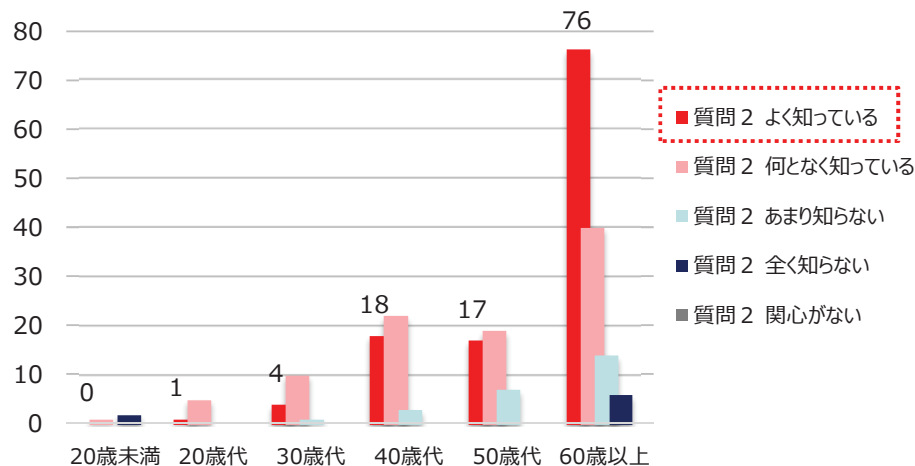
2. 連絡協議会広報全体の評価

■ イベントアンケート結果において、一般の認知度が高かった点について

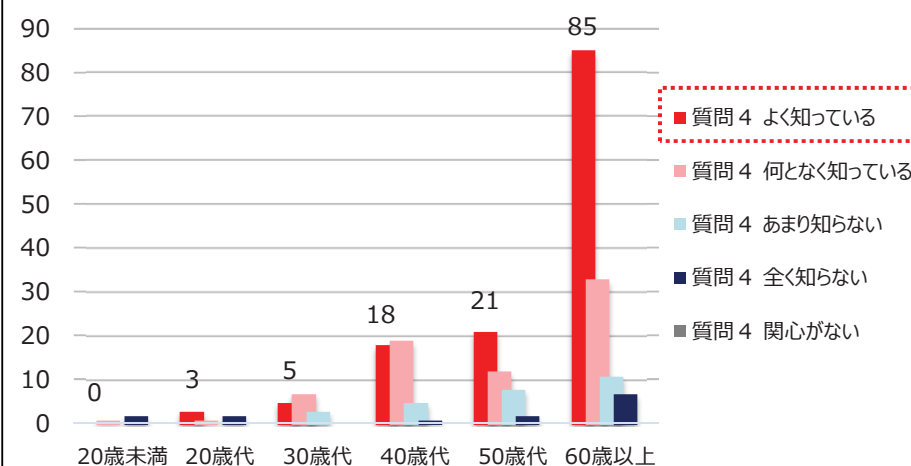
- パネル展イベントで実施したアンケートでは、右表のとおり大型車ドライバーより一般の方が①道路の老朽化問題や②特車制度について認知度が高い、または同等の結果となった。
- このため、①②について年代別の回答状況を確認したところ（下グラフ）双方とも60歳以上の回答者において、認知度を示す「よく知っている」との回答が大幅に多かった。

【認知度項目】	イベント〔合計294名〕		Web〔合計200名〕	
	一般	大型車ドライバー	一般	大型車ドライバー
①道路の老朽化問題	47%	29%	52%	81%
②特車制度	54%	53%	32%	69%
③連絡協議会イラスト	12%	22%	25%	69%

①【年代別】道路の老朽化問題の認知度



②【年代別】特車制度の認知度



【今後の課題】

- ✓ イベントで実施したアンケート調査は、Web調査のように各年代の均等割り付けはできないため、全般的に60歳以上の回答者数が多くなり偏った結果となった可能性がある。
- ✓ また、60歳以上の回答者の認知度が高くなった要因について、今後検証する必要がある。

2. 連絡協議会広報全体の評価

【考察】

- ✓ 特車制度の認知度（良く知っている）は、イベントにおける一般のアンケート調査回答者の約 5 割が 60 歳以上の回答者と偏ったサンプルとなったことで、Web調査結果との差異が発生したものと考えられる。従って、各年代のサンプルに偏りのないWeb調査結果（一般認知度：3割）が社会一般全体を表す真値であると想定すると、一般への広報達成状況としてはまだ不十分な段階であり、今後も継続的な取り組みが必要。
- ✓ 同様に、大型車ドライバーでも、調査結果に 1 割強の差が出たが、認知度が 5 割以上の結果であったことから、特車制度への関心度が高まっていることと推測される。今後は、認知度100%に向けて、継続的かつ効果的な広報の取り組みが求められる。
- ✓ 双方の調査結果において、荷主都合の変更指示を経験したことのある大型車ドライバーが 8 割以上であったことや、運行管理者から毎回通行経路の指示を受けている割合が約 4 割程度であったことから、荷主および運行管理者に対しての継続的な広報の取り組みが必要。

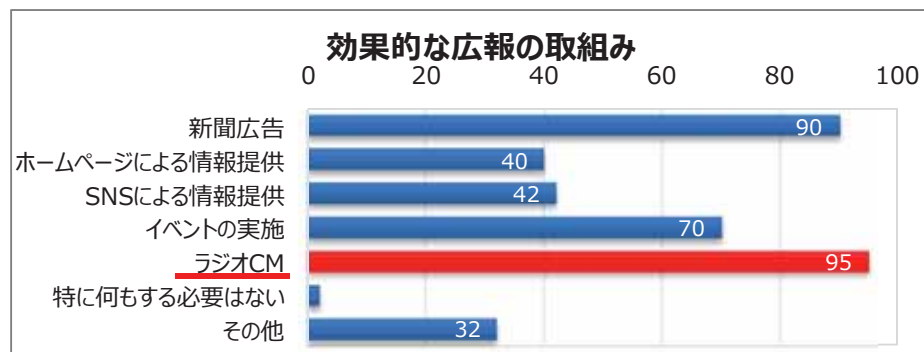
3. 各広報の評価

②－2 ラジオ広報Webアンケート調査結果まとめ

- ラジオWebアンケート（右図）において、連絡協議会ラジオCMを聴いた200名のうち、153名（約8割）は、広報内容について、「関心を持った」と回答した。
- なお、関心を持った内容で、連絡協議会の重点訴求内容である『重量オーバーの大型車が道路を傷める原因となっていること』と回答したのが5割以上（107/200人）であり、効果的な広報が実施できたと評価できる。
- また、パネル展イベントで実施した一般向けアンケートにおいても効果的な取組みとして、「ラジオCM」を挙げる声が多かった。

**ラジオ広報は社会一般からも支持される
効果的な媒体と評価**

【参考】イベントアンケート（一般）の結果

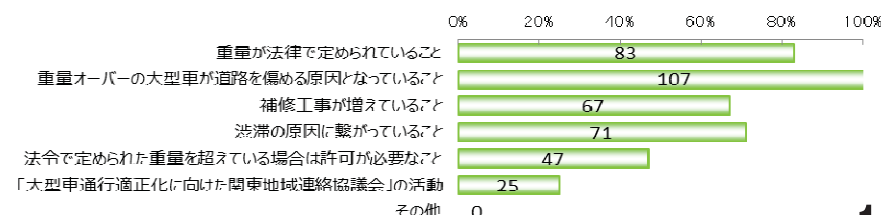


※ラジオ広報単体の評価

【質問3】連絡協議会ラジオCMを聴いて、どのような印象を持たれましたか？

	n	非常に 関心を持 った	多少 関心を持 った	あま り関心 を持た な	全 く関 心が 無 か つ た	特 に 印 象 は 無 か つ た
全体	200	43	110	35	6	6
	100.0	21.5	55.0	17.5	3.0	3.0
割付						
男性20代	20	3	12	4	1	0
	100.0	15.0	60.0	20.0	5.0	0.0
男性30代	20	8	11	1	0	0
	100.0	40.0	55.0	5.0	0.0	0.0
男性40代	20	1	7	8	2	2
	100.0	5.0	35.0	40.0	10.0	10.0
男性50代	20	4	9	4	2	1
	100.0	20.0	45.0	20.0	10.0	5.0
男性60代	20	1	17	2	0	0
	100.0	5.0	85.0	10.0	0.0	0.0
女性20代	25	5	14	4	0	2
	100.0	20.0	56.0	16.0	0.0	8.0
女性30代	24	5	13	5	1	0
	100.0	20.8	54.2	20.8	4.2	0.0
女性40代	20	7	9	4	0	0
	100.0	35.0	45.0	20.0	0.0	0.0
女性50代	20	5	13	1	0	1
	100.0	25.0	65.0	5.0	0.0	5.0
女性60代	11	4	5	2	0	0
	100.0	36.4	45.5	18.2	0.0	0.0
大型車運転／ それ以外						
大型車運転	16	7	9	0	0	0
	100.0	43.8	56.3	0.0	0.0	0.0
それ以外	140	27	76	28	5	4
	100.0	19.3	54.3	20.0	3.6	2.9

【質問4】関心を持ったのはどのような点でしたか？（複数回答）



3. 各広報の評価

③特車総合ツイッターアクセス結果

@tokusya_kanto

1) 評価指標

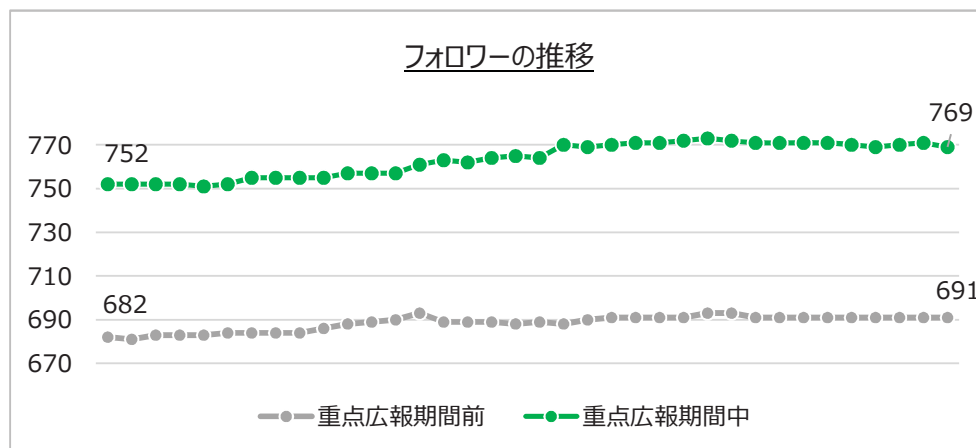
重点広報期間における特車総合ツイッターの評価指標には、当該アカウントのフォロワー数やツイートに対するインプレッション数およびエンゲージメント数を用いて検証を行った。

フォロワー数	インプレッション数	エンゲージメント数
特車総合ツイッターのアカウントをフォローしている人の数 ⇒当該アカウントの発信内容への賛同を表す	ツイートが閲覧（表示）された数 ⇒拡散状況を表す	リンクへのアクセス（クリック）やリツイート、いいね、写真の表示、プロフィールの表示等の総数 ⇒ツイートへの積極的関心を表す

2) 比較期間

下記の期間の比較にて検証を実施する。

検証期間 (重点広報期間)	10月6日（金）～11月10日（金） 36日間
比較期間	4月7日（金）～ 5月12日（金） 36日間



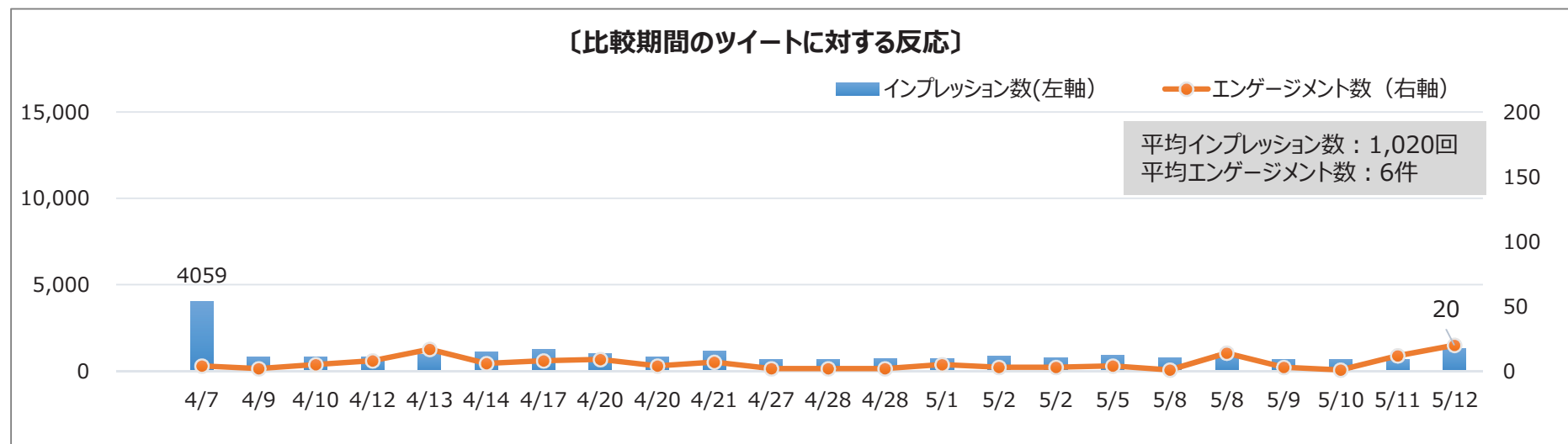
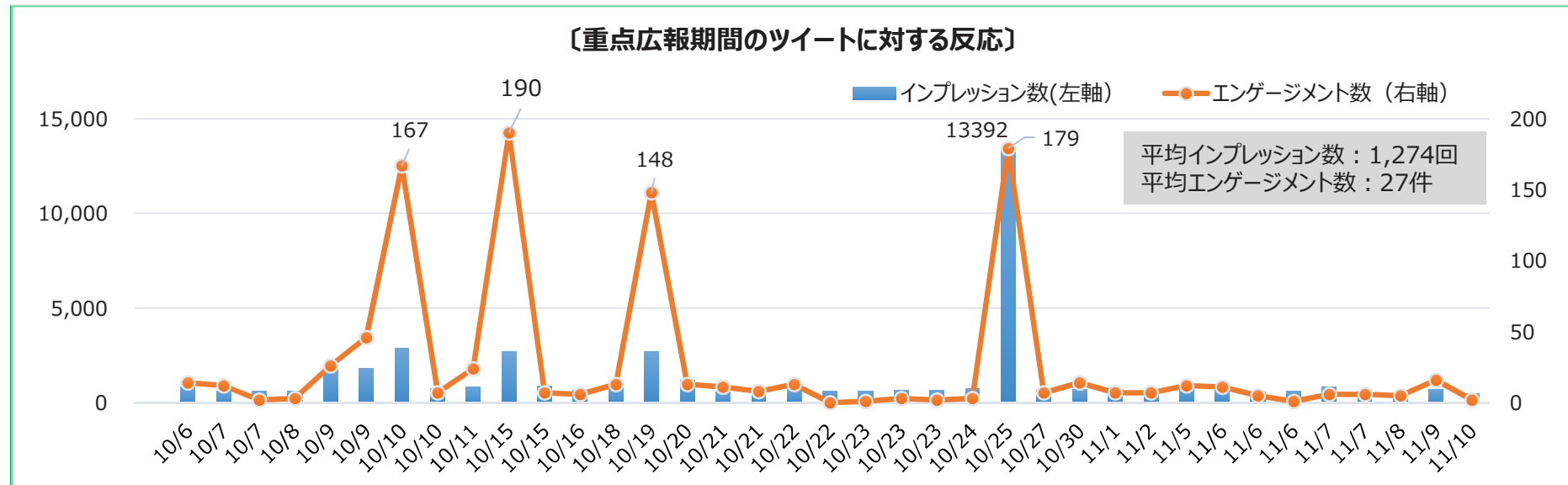
▶ 重点広報期間：17人増

▶ 比較期間（通常時）：9人増

3. 各広報の評価

③特車総合ツイッターアクセス結果

@tokusya_kanto



3. 各広報の評価

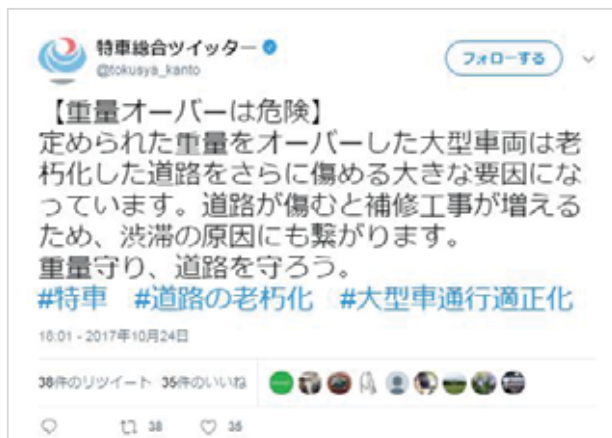
③特車総合ツイッターアクセス結果

@tokusya_kanto

■インプレッション数・エンゲージメント数を多く獲得したツイート

IMP数 = インプレッション数
EGM数 = エンゲージメント数

1位: 10/25 (水) 発信 (IMP13,392/EGM179)



↑
『重量オーバーは危険』とPRする同様のツイートを重点広報期間中に3回繰り返しツイート実施
(10/18、25、11/2)

2位: 10/9 (月・祝) 発信 (IMP2,870/EGM167)



3位: 10/11 (水) 発信 (IMP2,707/EGM190)



3. 各広報の評価

③特車総合ツイッターアクセス結果まとめ

@tokusya_kanto

- 重点広報期間において、平均インプレッション数は1.25倍、平均エンゲージメント数は4.5倍を記録した。
- ツイート別に見ても、比較期間には突出して多く閲覧および関心を寄せたツイートがなかったが、重点広報期間では、最大で1.3万インプレッション以上、190のエンゲージメント数を獲得し、関心を集めた。
- 一方、フォロワー数は比較期間に対して、1.8倍増であったが、大きく伸びなかった。

【考察】

- ✓ パネル展イベントや特殊車両の写真を用いたツイートを行ったことで、各指標において、増加が見られたため、一定の効果があったものと評価できる。
- ✓ 一方、フォロワー数の伸び悩みが発生していることから、今後も発信内容の充実化を図っていく必要がある。

4. 総評

全体

H29連絡協議会の広報



継続的な広報の必要性および検証方法の課題検討

- 特車制度の認知度は大型車ドライバーでは7割であったため、関心の高まりが推測される一方、一般の特車制度の認知度は3割であったため、今後も一般向けのわかりやすい広報の実施が必要。
- 昨年度に対して、一部連絡協議会の取組みの認知度の低下が確認されたため、今後も統一イラストやキャッチコピーを活用しながら、広報の接触率（機会、頻度）を上げる対策の実施が必要。
- 認知度が低めとなった一部の制度内容については、今後も繰り返しPRしていく。

個別

ラジオ広報



次年度も活用検討

- 連絡協議会ラジオCMを聴いた人のうち約8割が広報内容に関心を持たせることができたため、効果的な広報であった。
- パネル展イベントで実施したアンケート結果においても、「ラジオ」による広報が最も効果的との回答が多く好評であった。

個別

特車総合ツイッター



フォロワー増対策

- 各指標すべてにおいて、比較期間に対して増加が見られたため、重点広報期間の積極的活用は実施できたと評価できる。
- 一方、フォロワー数の伸び率が鈍化している傾向のため、今後改善・工夫が必要。